

「ロシア・ウクライナ間の戦争と農業」

日時：令和6年10月29日（火）14：00～15：00（オンライン開催）

国際領域 政策研究調査官 後藤 正憲

ロシアとウクライナはともに、穀物を始めとして油糧作物や豆類など、農産物の世界的な輸出国です。その両者間の戦争は、世界の食料需給にも深刻な影響を及ぼしています。地理的に互いに隣接し、歴史的にも20世紀の大半を同じ国として過ごした二つの国の農業は、共通する部分を多く持ちますが、今日では大きくかけ離れた側面も見られます。本報告では、そうした二つの国の農業を成り立たせている五つの要素に焦点を当てて、両者の共通性と違いを整理しました。

1. 生産者

大規模な企業と小規模農家の二極化した構造が、両国の農業に共通して見られます。大規模な企業の中でも、アグロホールディングと呼ばれる垂直統合型の巨大企業グループは、ロシアとウクライナともに、輸出向け農作物の主要な生産者となっています。その運営は、作物の売上のほかに、株主や金融機関からの投資で成り立っています。ロシアでは西側からの投資はめっきり減ってしまったのに対し、ウクライナの農業企業では、今でも金融国際機関や欧米の投資ファンドや銀行からの融資が目立ちます。アグロホールディングの中には、戦争にもかかわらず業績を大きく伸ばしている企業も多くある一方で、家族経営の農家に向けられる支援は限られており、企業と農家の二極化がさらに深まっています。

2. 土地

ソ連崩壊後は土地の私有化が進みましたが、農業用地として指定される土地の一部は、利用されず放置されたままになっています。ロシアでは、この耕作放棄地をいかに生産基盤に引き戻すかが重要な課題とされており、全国統一情報システムに土地の登録を推し進めるなどして、国による土地の管理を強化しています。一方ウクライナでは、土地の私有化が認められた後も、大企業への一極集中を避けるために、土地の売買は規制されてきました。しかし、債権者である金融国際機関が土地取引の自由化を要求しているため、ウクライナ政府は2021年7月から段階的に土地取引に関する規制の撤廃に踏み切りました。

3. 作物

穀物や油糧作物から成る輸出向け農作物は、主に企業組織で生産され、ジャガイモやその他の野菜は家族経営の農家での生産が主流となっている点は、両国ともに共通しています。ただ、戦争の影響でロシアの農業市場から欧米の企業が相次いで撤退して

いったのに対し、ウクライナの農業に対しては、むしろ欧米企業の関与する度合いが高くなっています。その中で、遺伝子組み換え作物（GMO）の大豆やナタネがウクライナに浸透しました。一方ロシアでは、GMOの持ち込みと利用が厳しく禁止されているとともに、とりわけ西側諸国からの種子や作物の輸入を制限する動きが強まっています。

4. 水

今日ロシアでは、灌漑や排水のための水利施設を地域行政が管理し、修理や新たな建設にかかる費用を国からの補助を受けて賄うことで、農業を行うのに欠かせない水を確保しようとしています。一方ウクライナでは、欧米の支援プログラムの後押しを受けて、水利施設の民営化が進められています。2022年2月に施行された法律では、農地の所有者や利用者によって組織される水利利用公団が、水利施設の新たな所有者となって、今後の運営を行っていくこととされています。しかし、これまで水利施設を管理してきた行政当局が、地元企業と結束して利権を渡さないといった障害も起きています。

5. 肥料

ロシアとウクライナの国境が軍事的な意味合いを持つようになる以前には、ロシアで採掘される資源を使って化学肥料が生産され、バルト海の港とともにウクライナの港からも輸出されていました。肥料の三要素すべてを産出するロシアは、今でも化学肥料の輸出量で世界トップに立っています。ウクライナもアンモニア輸出量では世界で上位を占めていましたが、ロシアがクリミアを併合した2014年以降、ロシアとの関係が悪化し、今では化学肥料の輸入量が生産量を上回るようになりました。今回の戦争では、かつてロシアとウクライナの港を結んでいたアンモニアパイプラインも爆破されて失われてしまいました。国内の生産も輸入も滞りがちなウクライナでは、現在肥料価格が高騰する事態が生じています。

以上のように、生産者、土地、作物、水、肥料の、いずれの要素においても、ロシアとウクライナでは、もともと共通の土台に立っていながら、それぞれの特徴が大きく異なっていることが分かります。中央集権化するロシアでは、農業に関しても国が統制力を強めているのに対し、ウクライナでは、西側の指導の下に市場の自由化が進められる中で、逆に政府が統制力を失っている状況にあります。こうした違いは戦争によって生み出されていると同時に、さらに対立を深める要因ともなっています。